

# 第2次大多喜町人口ビジョン

## 第3期大多喜町総合戦略



令和8年3月

大多喜町



# 目 次



はじめに 計画の概要 .....	2
1. 計画策定の趣旨 .....	2
2. 計画の位置付けと期間 .....	3
<b>第1部 第2次大多喜町人口ビジョン .....</b>	<b>4</b>
1. 序論 .....	5
2. 自然動態(出生・死亡)に関する仮定 .....	7
3. 社会動態(転入・転出)に関する趨勢仮定値の設定 .....	9
4. 移住・定住施策の効果に関する仮定とその実現に向けた取組 .....	11
5. 人口推計 .....	12
<b>第2部 第3期大多喜町総合戦略 .....</b>	<b>15</b>
1. 総合戦略の概要 .....	16
2. これまでの総合戦略における取組状況の評価・検証 .....	18
3. バックキャスティング(未来志向)によるターゲット別にみた総合戦略の方向性 .....	19
4-1. 分野別戦略 豊かに・便利に・大多喜らしく生活できる「まち」をつくれます .....	22
4-2. 分野別戦略 「ひと」と「ひと」の輪の中で幸せを実感できる環境をつくれます .....	28
4-3. 分野別戦略 魅力ある雇用と地域の活力維持に向けた「しごと」をつくれます .....	33
5. 関係人口創出の取組 .....	38
6. デジタルを活用した取組 .....	38
<b>資 料 編 .....</b>	<b>39</b>

# はじめに 計画の概要

## 1. 計画策定の趣旨

全国的に人口減少・少子高齢化が進行し、地域の産業、文化、コミュニティの維持・継承が大きな課題となる中、持続可能な地域づくりが強く求められています。

国においては、平成26年(2014年)に「まち・ひと・しごと創生総合戦略」、令和元年(2019年)には「第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略」が策定され、地方創生の取組が進められてきました。

一方で、近年、新型コロナウイルス感染症の流行による生活様式の変化、急速な技術革新に伴う新たな成長産業の可能性や人々の価値観の多様化など、社会は大きな変容を遂げています。こうした新たな社会潮流を的確に捉え、地方創生を加速させる力へと変えていくことが重要であるという認識のもと、国においてはこれまでの取組成果と課題を活かしながら、一人ひとりの豊かな暮らしと実感につなげる「地方創生2.0」の考え方が新たに示されています。

大多喜町(以下「本町」という。)では、平成27年(2015年)に「大多喜町人口ビジョン・総合戦略」を策定し、令和42年(2060年)における目標人口を8,000人として、人口減少を食い止めるための取組を進めてきました。しかしながら、直近の人口推計によると令和42年(2060年)の人口は、3,500人程度と見込まれており、この達成は困難な状況となっています。

こうした状況を踏まえて、人口動態の情勢を見直し、改めて人口の目標を定めるとともに、今後のまちづくり全体の指針を示すことが求められることから、「第2次大多喜町人口ビジョン(以下「本ビジョン」という。)」を策定します。

さらに、総合計画との整合を図りながら、人口ビジョンに掲げる目標を達成し持続可能な地域づくりを進めるための道筋を描き、本町の「まち・ひと・しごと」に関わる地域課題の解決や魅力向上を図るための計画として、「第3期大多喜町総合戦略(以下「本戦略」という。)」を策定するものです。

### 地方創生2.0の概要(右図) (内閣府資料・令和6年11月)

地域の多様な主体が一体感を持ち、「地域の可能性が最大限に引き出され、すべての人が希望と幸せを実感する社会の実現」を目指すことが示されています。

### 地方創生2.0

地域の産官学金労言<sup>※</sup>の関係者が知恵を出し合い、希望・熱量・一体感を取り戻す形で、新たな地方創生施策(「地方創生2.0」)を展開。

※ 産：産業界、官：地方公共団体や国の関係機関、学：大学等の教育機関、金：金融機関、労：労働団体等、言：報道機関

#### 取組

- 「新しい地方経済・生活環境創生本部」を設置し、**今後10年間の基本構想**を策定
- 「新しい地方経済・生活環境創生交付金」を創設 (出典) 各地方公共団体のウェブサイト等

#### ① 農林水産業や観光産業等の高付加価値化

<魚介類の特産品(北海道上ノ国町)> <古民家をリノベーションした観光拠点施設(徳島県美馬市)>



#### ② 買物、医療、交通など、日常生活に不可欠なサービスの維持向上

<道の駅を核とした買い物拠点(長野県豊丘村)> <オンライン診療車(長野県伊那市)>



#### ③ デジタル新技術を活用した付加価値創出

<スキーフット(※1)「ニコパワートーク」> <山古志DAO(※2) 錦織アートNFT(新潟県長岡市山古志地区)> <「伊豆ファンクラブ」(地域課題も取り込んだ観光型) (静岡県三島市・熱海市・国府町)> <AIを活用した牛の健康管理(北海道中標津町)>

(※1) Non-Fungible Token(非代替性トークン)の略、(※2) Decentralized Autonomous Organization(分散型自律組織)の略。



- 地方創生の交付金を**当初予算ベースで倍増**することを目指す

#### 目指す将来像

地域の可能性が最大限に引き出され、すべての人が希望と幸せを実感する社会の実現

関連する法令・予算  
・新しい地方経済・生活環境創生交付金(予算/内閣府)

## 2. 計画の位置付けと期間

### (1) 第2次大多喜町人口ビジョン

本町の人口の現状分析を行い、人口問題に関する基本認識を共有し、今後目指すべき将来の方向であるとともに、今後のまちづくりの指針となる人口の将来展望を示す長期的な人口ビジョンを定めます。

本ビジョンの計画期間は、令和42年（2060年）までとします。

### (2) 第3期大多喜町総合戦略

人口ビジョンにおける方向性、「大多喜町総合戦略（現行）」における進捗や国の「地方創生2.0基本構想」を踏まえ、今後5か年における取り組むべき施策の基本的方向や施策を定めます。

本戦略は、分野別戦略、方向性、事業で構成します。また、推進に当たっては、人口ビジョンに掲げる目標や方向性に係るKPI（重要業績評価指標）の達成度により進捗を管理するとともに課題を抽出し、改善の動きにつなげる「PDCAサイクル」を導入します。

本戦略の計画期間は総合計画前期基本計画と整合を図り、令和8年度（2026年度）から令和12年度（2030年度）までの5年間とします。

